

第一回きのこ栽培トレーニング報告書



1. 実施期間	2016年11月末～2017年3月末
2. 実施国	インド
3. 活動地域	ウエストベンガル州バンクラ地方ビシュナプールハンセン病コロニー
4. 活動の背景	ワークキャンプ事業によってインフラ整備とコロニーの周辺住民の持つ差別意識の解消に取り組んできた。活動を継続的に行うことでコロニーの人々との関係構築が十分にでき、周辺住民からの差別も減少している。そこで、ワークキャンプ事業と並行して、今後は就労支援事業を強化、拡大することでコロニーの人々の収入の安定化を目指す。
5. 活動の目標	就労トレーニングによって手に職を得たコロニーの人々が、市場で自ら商品が売ることができるようになることで、安定した収入を得ることを目指す。安定した収入を得ることが出来たコロニーの人々が、子供たちに十分な教育を受けさせることができ、その子供たちがさらに安定した職業へ就くことができるといった正のスパイラルを生み出す。
6. 実施概要	ビシュナプールハンセン病コロニーにおいて、きのこ栽培トレーニングを行った。現地で需要の高いきのこ（ひらたけ）を栽培し、カウンターパートナーを通じて地域住民への販売を行った。

(1) 実施した内容

①メンバー選定のためのミーティング

メンバーの選定のため、村長とカウンターパートナーを交えた事前ミーティングを行った。村長から「このコロニーのほとんどが物乞いで生計を立てており、経済状況はほとんど変わらないにも関わらず、一部の人だけがきのこ栽培によって利益を得ることはコロニーの人同士の関係を悪くする理由になる」との意見をもらい、また村長以外へのヒアリングも行ったところ同じ意見だったため、コロニー全ての家庭が参加出来る様にメンバーを選定した。

②きのこ栽培小屋の修復、整備

きのこ栽培を行う前に栽培を行う小屋の修復を行った。今回はコロニー内の空き小屋をきのこ栽培小屋として活用するため、屋根と壁面、扉に空いている穴の修理を村人と共に行い、雨漏りとねずみの侵入を防止した。また小屋内には別途作成した鉄製の棚を設置した。



(栽培小屋の扉の修理、交換)



(栽培小屋の床の修復)

③きのこ栽培トレーニング

きのこ栽培に精通しているトレーナーを雇い、実際の作業を通じてトレーニングを行った。作業内容としては下記の6工程である。

- ①ワラの熱湯消毒、②菌床袋の作成、③きのこ菌を熱湯消毒したワラと一緒に②で作成した袋に詰める
- ④作成した菌床袋を棚に設置、⑤暗室に2週間程放置、⑥毎日朝夕2回の水遣り



(ワラの熱消毒)



(菌種とワラを袋に詰めて菌床袋を作成)

一回の作業は1チーム10人~11人で行い、1回につき一人1つの菌床を作成した。作業自体は比較的容易ではあるが、メンバーの中には手足に障害を抱えている者も多く、そういったものはメンバーの助けを得ながらトレーニングを行っていった。



(障害を持つ方とそれを横でサポートする第2世代)



(出来た菌床袋は室内で安置)

④きのこの収穫

作成した菌床は1ヶ月ほどできのこが発生し、コロニーの人々と一緒に味見をすることが出来た。きのこを食べることは初めてといった人も多く、またきのこ自体は森などで見かけたことがあっても、実際に生えてくる過程を見ることは初めての経験のため、きのこが発生してからは「とても美しい!面白い!」など様々な声が上がった。また味についてもインド人に向いているようで「とても美味しい」とのことであった。



(安置後、2週間で発生したきのこ)



(収穫間近まで育ったきのこ)



(初めて収穫したきのこの試食会)



(初めてきのこを食べるおばあさん)

⑤きのこの販売

今回、収穫したきのこはカウンターパートナーが買い取り、それを販売するという形をとった。なぜなら今日さえハンセン病コロニーの人が市場で物を売ることは困難な場合が多いからである。また売れたとしても買い叩かれる可能性が高くと想定されたため、カウンターパートナーによる買い取り方式とした。値段の交渉に関しては事前に当団体のスタッフが協議し、適切な値段を設定した。

カウンターパートナーが村にきのこを購入しに来た際は複数人が立会い、重量や金額に関して間違いがないかしっかりとチェックするフローを徹底した。これは不正を防ぐためでもあるが、自分達で栽培したものを自分達で売っているという当事者意識を強く持って欲しかったためである。

(2) 事業を通して気付いたこと、問題点など

①収穫量が計画を大幅に下回った件

主な原因は「ウイルスによる病気への感染」と「盗難」である。「盗難」に関しては栽培小屋の扉に鍵を設置した。そして鍵を当団体スタッフ及び村長が所有する形をとった。「病気への感染」は今後いつ何時起こるかわからないため、改めて菌を購入している工場を訪問し、これまでのトラブルや病気とその対応策のヒアリング、リスト化を行う予定である。トラブルや病気とその対応策を当団体スタッフだけでなくコロニーのメンバーとも共有することで、将来的にコロニーの人々だけで事業が成り立つようにしていきたい。

②障害を持つ人の作業割り振り

きのこ栽培の一連の作業は比較的容易であると考えたため、障害を持つ人達も同様の作業を行ってもらった。しかし、実際に行ってみると、ちょっとした作業に関しても困難を感じる人がおり、適切な作業の割り振りを行う必要があった。たとえば毎日の水遣りを行う代わりに菌床の作成は別の人が行うなどである。来シーズン参加するメンバーの状況を踏まえて、改めて検討していきたい。

以上